

eスポーツ 広がる舞台

コロナ下 孤立解消

新型コロナウイルスの感染拡大が続く中、コンピュータゲームの腕を競う「eスポーツ」の普及が加速している。各地に練習施設ができ、部活動にとり入れる学校も増加。シニア世代の認知症予防や孤立の解消にも一役買っている。

(大塚美智子)

駅ナカ・高校部活・認知症予防



JR松戸駅にできたeスポーツの練習施設。ヘッドホンをはめ、専用の端末でゲームに没頭する(5日、千葉県松戸市)

■eスポーツ エレクトロニック・スポーツの略。野球、サッカー、バスケットボールなど種目は様々。海外では賞金総額が数十億円に上る大会もある。2022年に中国・杭州で開催されるアジア競技大会では正式競技として行われる。

■練習施設

「よし、いけいけ」。大型連休中の今日5日、JR松戸駅(千葉県松戸市)構内にあるeスポーツの練習施設で、若者たちが画面と向き合っていた。

施設はJR東日本のグループ会社が1月に開設。アクリル板で仕切られた全20席に、高性能なデスクトップパソコンがずらりと並ぶ。この日、戦闘ゲームをしていた地元の中学3年伊藤龍之介さん(14)は「オンラインでつながった人と協

▶プレー時間や頻度を決め、「ノーゲームデー」を設ける

▶1日3回の食事と十分な睡眠をとり、規則正しい生活を心がける

▶定期的ストレッチや運動をして体を動かす

▶未成年の場合は親が目配りし、異変があれば専門医などに相談



※神田秀幸・岡山大学教授の話に基づく

ルール作り大切

eスポーツの課題は、ゲーム依存(ゲーム障害)の問題だ。熱中しすぎて生活に支障を来す子どもの増加が懸念されている。

岡山県共生高校のeスポーツ部でチームドクターを

務める岡山大学の神田秀幸教授(49)(公衆衛生学)によると、プレー時間や頻度を自分で決め、プレーしない日や休むなどの「ルール作り」が重要だ。神田教授は月に1度、部員と面談し、規則正しい生活を促している。成績が急げ下がるかや、成績が急げ下がるなどしていないかを確認する。

神田教授は「依存が高まると、本人が自力で改善することが難しくなる。周囲が注意深く見守り、早めに専門医などに相談することが大事だ」と話している。

力してゲームを攻略するのが楽しい」と笑顔を見せた。東京メトロとeスポーツ関連会社「ゲシビ」(東京都千代田区)も、東京メトロ赤羽岩淵駅(北区)の空きスペースに、プロ選手のレッスンを受けられるジムを開設。緊急事態宣言明けに営業を開始する。

東京タワー(港区)には、eスポーツを体験できるテーマタウンが年内にも入居する。4フロアを使用予定で、国内最大級のeスポーツ関連施設となりそうだ。

■集中力養う

日本eスポーツ連合(東京)によると、eスポーツは2000年代から海外で広まった。国内ではプロチ

ームが次々と結成された18年が「eスポーツ元年」で、コロナ下で在宅時間が延び、ゲームをする人が増えたことで普及が加速。ゲーム情報メディア「ファミ通」の調査によると、20年の国内市場規模は約67億円、24年には184億円に拡大すると予測されている。

中高生向けの「シルバーeスポーツ」も注目されている。昨年7月に神戸市にオープンした施設「ISRE eSports」はシニア専用で、60〜90歳代の約70人が登録。パソコンが苦手でも、スタッフが丁寧に教えてくれる。

■シルバー大会

富山県は今年度、シルバリーeスポーツの全国大会の開催を計画。県eスポーツ連合の塚谷陽平会長(31)は「シニア世代も楽しめるeスポーツの魅力を広めていきたい」と語った。

「集中力が養われ、戦術の分析を通じてコミュニケーション能力の向上が期待できる」と話す。

eスポーツ用端末を貸し出す「サードウェーブ」(東京)によると、貸出先は全国の284校(4月末時点)で、大半が部活動。通信制のクラーク記念国際高校(北海道)が19年に都内に設けた「eスポーツコース」では現在、1〜3年生計95人が腕を磨いている。

朝起きられないなどの異変があれば、活動を休止させることも検討する。